

来世への信仰

:

明:来世を信じることの重要性、墓の下で待ち受ける、判の日、そして末のについて。

目:[事イスラムの信条「信仰の六ヶ条」とその他のイスラムの信条](#)

より: IslamReligion.com

日 05 Dec 2009

集日 05 Dec 2009



人はでも死ぬのが怖いものです。その先に何があるのか分からず、予もつかないのはとても恐ろしいことにはいありません。イスラムは、来世で何が起こるか、また何が待ち受けるかということを最も明に描写する宗教です。イスラムは死というものを、人という存在にとっての次の段への自然な入り口であると なしています。

イスラムの教では、人はその肉体の死も 的、かつ物理的な 活をすることにより存在しけると主 します。そして 世での行いは来世の行き先と密接な を持ちます。来世では 世での自らの所 に じて、褒美か のどちらかが与えられるのです。神はその日最初のものから最 のものまでの全ての 造物を らせて召集し、その全てを公正に裁くのです。そして人々は最 の住 である もしくは火 に振り分けられます。私たちはこの世で 心な人々が

苦しみ、不信心な人々が しむのを ますが、やがて全ての人々は公正に裁かれ、最 的には正 がもたらされるのです。

来世への信仰はイスラ ムの信仰六か条の一つであり、ムスリムの信仰を完全なものとするためには欠かせません。それら六か条の内の一つでも拒否すれば、例え他の五つを信じていても意味を成さないのです。子供が火の中に手を入れないのはなぜでしょうか？ 火 することを知っているからです。しかしその子が宿 をする に面倒くさいと感じるのは、それが将来的に何をもたらすかを完全に理解していないからです。では 判 の日を信じない男についてはどうでしょうか？ 彼は神への信仰とそれに基づいた人生の重要性を熟 しているのでしょうか？ 彼のような人物にとって、神への服 は 益なのであり、不服 は 害なのです。— このような者に、神を意 した生活を送ることが可能でしょうか？ 彼が人生の に耐え、世俗的な快 に耽ることを回避する とは何でしょうか？ そして例え彼が神への信仰を持っていたとしても、神が示した道に わないのであれば、その信仰自体には何の意味があるのでしょうか？ 来世への信仰に する受容と拒否は、人 の人生の行方を左右する最も重大な要因の一つであると言えるかもしれません。

イスラ ムの教 において死者は墓の中においてもまだ意 を持ち、その存在を けています。ムスリムは人の死 、死と 活の中 状 に入ることを信じます。この“新しい世界”では、全ての人 が天使によって 世における彼の宗教、彼の 言者、そして彼の主に する を受けることや、また“墓 の ”など、多くの出来事が起こります。墓地は人によっては天国の庭 、もしくは火 の穴となり得ます。慈悲の 天使は信仰者の魂を れ、 の 天使は不信仰者を れます。

そして 末の には 活がもたらされます。神は大天使に してラッパを吹くよう命じ、そのひと吹き目によって神が望む者以外の全ての者は意 を失い、山々は粉 と化して破 され、地上は平らになり、空は裂け、宇宙の 惑星は散乱し、墓地は覆されます。

人々は元々の肉体のまま墓地から 活させられ、それによって生命の三番目である最 段 に入ります。そしてラッパが再び吹かれると人々は 活し、墓地から立ち上がるのです。

神は信仰者、不信仰者に わらず、人、ジン、魔、更には 物まで全て召集されます。それは万物の集いとなります。天使は、全人 を裸で割礼していない状 でその大いなる集いへと召集します。人々は 判の を待って立ち尽くし、余りの苦しさにより汗が流れ出ますが、心の人々は神の至大なる玉座の に匿われてその保 を受けます。

そして人々にとってその の苦 が堪え い程度にまでなると、彼らは 言者や使徒に して彼らの苦 をどうにかしてもらえよう、彼らの代わりに神の り成しを要求します。

そしてそこには天秤が置かれ、人々の所 が秤にかけられます。そこでは 世で行った所の が明らかにされます。それらの を右手に渡される者は善い清算を受けたのであり、喜々として家族のもとに るでしょう。しかしその を左手に渡される者は火 へと投げ まれ、永久に死んだ方がましだと思うでしょう。彼は 悔の念に苛まれ、その を受けないで んだのならよかったのに、それを知らないままでいればよかったのに、と悔やむのです。

そして神は、かれの 造に する 判を下します。全 造は彼らの善行と罪を知らされます。信仰深い人々は彼ら自身の 失を め、赦されます。信仰のない人々はそもそも 世において われていたがために、何も善行が残っていません。一部の学者たちは、もし信仰なき人々に善行が残っている 合、最も大きな罪である不信仰に する 以外の が されるとい う 解を持っています。

そして火 の上には、?????

と呼ばれる へ く が架けられます。神の宗教に 固たる信念を持っていた人々は、その を容易に渡ることが出来ます。

と火 は、正しい人々、そして われた人々が最 の 判の に居住する最 的な住 となります。そこは真 の であり、未来永劫に くのです。 の人々の祝福、そして火 に落された不信仰者の は して えることがありません。他の宗教に られるような合格 不合格システムとはい、イスラ ムの 点はより であり、かつより高尚である、神による正 を唱えます。これは次の二つの点によって理解することが出来ます：第一は、一部の不信仰たちの悔悟

を怠った大罪による火の苦しみであり、第二は 火 と火 の双方に段 が存在する事 です。

は物理的快 と精神的喜びに ち溢れた永久なる であり、そこにはいかなる苦痛も存在せず、肉体的要求は全て たされ、あらゆる望みがかなえられます。そこには 殿、召使い、富、ワインや乳、蜜の川、芳しい香り、心地良い声、 密な配偶者たちなどがもたらされます。人は して退屈にならず、 きを感じることもないのです。

しかしその中でも最大の祝福は、不信仰者には してその 会が巡ってこない、主との面会です。

火 とは不信仰者のための悲惨な の であり、罪深い信仰者の 化の でもあります。拷 と は肉体と魂への堪え い苦痛であり、そこでは燃えさかる 火で かれ、煮えたぎる と食料を口に め まされ、 で り付けられ、火柱によって じ められます。不信仰者は永久にその中に留まりますが、罪深い信仰者はいずれ火 から救い出されて へ入れられます。

とは神のみを崇 し、 使徒を信じて い、 典の教えに沿った道 的な人生を送った人々のためのものです。

一方火 とは神を拒否し、神以外のものを崇 し、 使徒の呼びかけを拒 し、罪深い、悔悟なき生活を送った人々の最 的な住 なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/38>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。